

## 学習指導要領解説（小学校 図画工作）

### 「指導計画の作成と内容の取扱い」について考える ③ 前半

低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。

低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること、とは？

これは、低学年の児童の表現の特性や傾向を考慮し、他教科等との関連を積極的に図るようについて示された内容です。

幼児期は体験活動が中心の時期であり、周りの人や物、自然などの環境に体ごとにかかわり全身で感じるなど、活動と場、体験と感情が密接に結び付いている時期です。小学校低学年の児童は同じような発達の特性をもち、体験を通して感じたことや考えたことなどを、常に自分なりに組み換えながら学んでいます。

このような発達の特性を生かし、生活科など他教科等との関連を積極的に図っていくことが大切です。例えば、図画工作科の時間に楽器をつくり、生活科で紹介するとともに、音楽科の時間にその楽器を使って音色に気付く活動を行うことが考えられます。さらに、自然などの経験、生活科における自然や身近な社会などの経験を図画工作科の造形的な発想に生かすことなども考えられます。

また、生活科から見た関連をはかり方として次の2つが考えられます。

#### 第1 図画工作科の学習に生活科の学習成果を生かす方法

生活科の内容には、季節の変化と生活に関する学習活動があります。そこでは、身近な自然を観察したり全身で感じたりします。そうした活動を通して、自然の変化や四季それぞれの美しさを強く感じ取ることが、絵などで表現したくなる気持ちにつながります。それは、図画工作科などにおける学習活動の動機付けとなったり、格好の題材となったりします。指導に当たっては、図画工作科及び生活科の目標や内容が一層効果的に実現できるよう配慮する必要があります。

#### 第2 教科の目標や内容の一部について、これを合科的に扱うことによって指導の効果を高める方法（生活科からの視点で）

生活科では、生活科の特質や低学年の児童の発達の特性を考慮して、単元または1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、児童が具体的かつ総合的に学習できるように工夫することが考えられます。その際、関連した教科の目標が、生活科の目標とともに実現されていくように配慮する必要があります。例えば、児童が生活科における活動を歌や踊り、劇によって表現する単元の展開が考えられます。生活科の活動を基に発表内容を創り上げる際に、国語科、音楽科、図画工作科、体育科等の目標も効果的に実現され、効果的な授業時数の活用を図ることが考えられます。

（※ 小学校学習指導要領解説図画工作編、生活科編を参考にしています。）



分量が多くなりますので、後半の「特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。」については、次回、考えてみます。

12月6日（金）頃アップの予定です。